

自然満喫 洞爺湖中島を歩く

6月21日、教育委員会が主催する「自然に親しむ集い」の第1弾として、中島散策が行われました。

コースは、巨木跡を過ぎて、湖岸まで下り岸辺を歩く10のコース。

当日は、16人が参加して、洞爺ガイドセンターの飯田理さんと西原萌恵さんが資料をもとに案内してくれました。



中島散策を楽しむ参加者ら

途中鹿の生態や中島の植物の説明を聞きながら、晴天の中島を約4時間かけて歩き、自然を満喫していました。

「新エネ百選」に選定

「JAとうや湖雪蔵貯蔵施設」

経済産業省などが今年から始めた「新エネ百選」に、JAとうや湖の雪蔵貯蔵施設が胆振管内で唯一選定されました。

この百選は、地域の特性などを考慮した地産地消型の新エネルギー等利用の優秀な取組みを選定するものです。

北海道からは、氷雪エネルギーや風力発電など10施設が選定されました。

洞爺湖地域温暖化対策まちづくり協議会の傳正宏事務局長は「雪蔵はCO2削減という環境保全だけでなく、ブランド化の期待も高まっており、今回の選定が一層の後押しになる」とこれからの期待をにじませました。



「新エネ百選」に選ばれた雪蔵貯蔵施設

■ 昨年の北海道洞爺湖サミット開催から1年が経過するのを前にして、6月13日「『サミット記念の森』の集い(主催北海道)が開かれ、町民をはじめ札幌、室蘭などから約150人が参加。森づくりを通じた地球温暖化防止への理解を深めました。

午前の部では、洞爺湖文化センターで、北海道地球温暖化推進委員の湯津雄夫氏が、インドネシアなどの砂漠化、地球温暖化の現状について紹介した記念講演と「クリーンな地球へ、北海道からの発信」をテーマとするパネルディスカッションが行われ、森づくりを通じた二酸化炭素削減の重要性を確認しました。

午後からは場所を移動し、西山火口散策路南口の付近にある町有地を「サミット記念の森」とする除幕式が行われ、その後道産マツの新品種クリーンラーチ60本とトドマツ、カラマツなど合計340本の苗木を植樹しました。この森づくりは、今後3年間で約1,500本植える予定になっています。



環境保全を願い植樹する参加者ら

地球温暖化防止へ

「サミット記念の森」で植樹

6月25日、日本ハムファイターズのマスコットB・Bが、洞爺湖町を訪れ、観光情報センターのロビーで、チビッコファンとの交流会を開きました。当日はファイターズファンの親子ら約70人が参加し、持参した色紙やボール、ユニフォームなどそれぞれにサインをしてもらい、握手、記念撮影などB・Bと直接ふれ合うことができ、子どもらは大感激していました。



B・Bのサインをもらい喜ぶチビッコファン

■ ファイターズマスコットB・Bと交流
サインや握手で子どもらとふれ合う

まちのわだい